

私情協
ニュース
No.2平成24年度 ICT利用による教育改善研究発表会
受賞者決定

1. 本発表会の趣旨

本発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT活用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的として、平成5年より実施している。優れた発表に対しては論文誌「ICT活用教育方法研究」に掲載するとともに、文部科学大臣賞（最優秀賞）や私立大学情報教育協会賞（優秀賞）を授与し、その教育業績を顕彰する。

本発表会は今年度で19回目となり、これまでに文部科学大臣賞5件、協会賞31件、奨励賞40件、佳作4点を顕彰してきた。なお、本発表会では毎年度、文部科学省の後援と文部科学大臣賞の交付が認められている。

2. 選考方法および結果

今年度のICT利用による教育改善研究発表会は、平成24年8月10日に東京理科大学九段校舎で開催し、人文、社会、理工、情報、医歯薬、家政系の分野から53件の発表があった。選考は、「教育上の問題解決を図るために、ICT利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること」「ICTを利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること」「客観的かつ具体的な成果により、教育改善の効果が示されていること」を基準に行い、授賞選考委員会により8件の研究を選考した。その後、10月6日に行った2次選考の結果、「奨励賞」2件の授賞が決定した。

表彰式は、平成24年11月27日に本協会の第5回臨時総会の冒頭に行い、文部科学省高等教育局専門教育課の内藤敏也課長による来賓挨拶、ICT利用教育改善発表会運営委員会の直井英雄担当理事による発表会の概要説明と本年度結果報告の後、本協会の向殿政男会長による奨励賞の表彰楯の授与を行った。受賞者は次の通り。



（左から 文部科学省専門教育課内藤課長、受賞者 日本大学中山氏、北海道医療大学チームより二瓶氏、本協会向殿会長）



平成24年度 ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者

奨励賞

■ 構造力学の理解を深める補助教材の開発とその効果について



日本大学
中山 晴幸

<授賞理由>

本研究は、構造物への力学的展開とその解法を学ぶ「構造力学」において、学生が理解しにくい座標系の使い分けや、数式展開によらず具体的な力のイメージを描かせるための補助教材として、体感型の自己学習用パッドと演習サイトを活用することで、学生自身に理解度を把握させながら苦手分野の克服に貢献している。

■ 学際的チーム体制により開発した薬学6年制教育支援システムと主体的な学習時間の確保



北海道医療大学
二瓶 裕之



北海道医療大学
和田 啓爾



北海道医療大学
小田 和明



北海道医療大学
中山 章



北海道医療大学
唯野 貢司



北海道医療大学
千葉 逸朗

<授賞理由>

本研究は、6年間の一貫したカリキュラムの中で学びの連続性を持たせた学習支援を行うため、教員が一体となって全科目の支援システムを開発し、授業時間外での問題演習など主体的な学習時間の確保や、学内の薬学共用試験、薬剤師国家試験の合格に一定の役割を担っている。他の医療分野も含めた汎用的な情報共有基盤として発展を期待したい。